

# わくわく国際交流

深川国際交流協会 広報誌 Vol. 22 2010. 3

<http://www.fukakoku.sakura.ne.jp/>



↑ 深川国際交流協会総会



↑ インターナショナルデー 「Human Knot (輪になろう)」



↑ インターナショナルデー 「World Word!」



↑ 青年の家でホームステイ!!～英語で遊びましょう～  
調理 (ハンバーガー)



↑ 青年の家でホームステイ!!～英語で遊びましょう～  
英語の歌を覚えよう (カントリーロード)



↑ 深川国際交流協会 「親睦の集い」

## 今、アジアが面白い

深川国際交流協会 会長 小瀧 聡

5 年ほど前から、私の目は「アジア」に向いていた。「これからはアジアの時代」という風潮にも影響されていたのかも知れない。アジア、それもアジアの人々に興味が湧いた。2005 年以来、私は 1 年に 2~3 度、アジア方面行きの航空券を手にしてきた。

「計画を立てないで見知らぬ所へ出かけたらどうだろう」。「行き当たりばったり」で、旅行日程なしで、そんな感じで、出かけてみたい。きっと、思いがけない出会い、経験が飛び込んで来るに違いない。そんなことを思いついた。「計画に拘束されない」から予想外な人に出会うことがある。

昨年 9 月 1 日深夜、私と妻は、ソウル経由でモンゴル、ウランバートルに着いた。拓大に留学していた、モンゴル人エルカ（現在、拓大政経学部 3 年）が 5 年ぶりに帰国し、お世話をしてくれるということになったからだ。

翌日の午前 9 時、エルカがホテルにやって来た。その日は、エルカと私たちで、徒歩圏内にある中心街の主要部分を見学することに決めた。5 分もしないうちに国立モンゴル大学の前に来た。正面には、チョイバルサンの大きな銅像が建っている。モンゴルをスターリン体制に近づけた 1929 年の大統領だ。学年始めということもあり、学生は、履修登録のため列を作り、雑然とした雰囲気。そこで偶然、私たちを日本人と見て、一人の先生に声をかけられた。ドゥガー・ウラモルギーク (Duger ULAM-ORGIKH) 先生だ。物理学の先生だ。彼は大阪大学に 5 年間学んだことがあり、学内で日本人を見て珍しく、懐かしく話をかけたという。

5 分もしないうちにすっかり打ち解けていた。とても親しみやすい、明るい、40 歳ぐらいの教員だ。

そこで予期せぬ話が出た。次の土曜日の、モンゴル日本友好協会主催のハイキングがあるので、それに参加しませんかというお誘いだった。計画のない私たちはその話に乗った。

それから 4 日目の 9 月 5 日、エルカと私たちは友好協会の人達約 100 人と登山道の入り口に来た。そこは、牛、羊、ヤギなどの放牧地で、前方にカラ松の林が見える。3 人の登山リーダーから細かな説明と注意を受けた。

手提げバックにエルカのお母さんが準備してくれたピザ、サラダ、水を持って歩いていた私を見て、モンゴル大学の二人の先生が、私の荷物を自分のリュックに入れて登ってくれた。途中 3 度ほど小休止をして、急な坂道を登り降りしながら、チンゲルテイ山の山頂までの全行程 14 キロ。これは立派な登山で、岩場もあり、景色のよい展望台もあった。この登山のおかげで、日本に関心のある学生、留学経験のある人、日本から派遣されている専門家の人達と出会うことが出来た。計画を立てない旅行者だから、こんな楽しい経験が出来たのだと思う。皆さんも、一度こうした旅行を試してみてください。

## 深川国際交流協会総会開催

4 月 21 日（火）、プラザホテル板倉にて、深川国際交流協会総会を開催しました。

議事内容は、2008 年度の事業報告及び決算報告、2008 年度の監査報告、2009 年度の事業計画（案）及び予算（案）、役員の変更についてでした。

2009・2010 年度の深川国際交流協会の役員は、次のとおりとなりましたので紹介いたします。



◆ 2009・2010年度 深川国際交流協会役員 ◆

役 職	氏 名	役 職	氏 名
顧問	芳賀昭雄	理事	北本清貴
会長	小瀧 聰	理事	高田真知子
副会長	宇野富美子	理事	藤岡順子
副会長	広野勝利	理事	梅澤龍成
理事長	谷口保幸	理事	淀野順子
副理事長	宮田嘉明	理事	三谷直美
副理事長	板倉明子	理事	横田育子
理事	中川良平	理事	岡 隆史
理事	笹口和子	理事	関 晶子
理事	土門裕之	事務局長	渡辺 優
理事	轡田淑子	事務局次長	早川雅典
理事	松田俊雄	監 事	深川ロータリークラブ会長
理事	上垣由紀子	監 事	宮川 央子

## インターナショナルデー 開催

深川国際交流協会 国際理解部会長 淀野 順子

6月10日（水）、プラザホテル板倉にて、国際ソロプチミスト深川と深川国際交流協会の共催による「インターナショナルデー」を開催しました。

今回はゲストにAET6名、拓殖大学北海道短期大学の招聘講師・留学生43名を迎え、参加者は小中高校生を含む94名と大きな催しになりました。

小瀧会長と国際ソロプチミスト深川の佐藤会長の挨拶で幕を開け、AETによる英語を交えた自己紹介の後、テーブル毎にチームの名前を決めました。ゲームの1つめは、AETの企画「Human Knot（輪になろう）」。参加者がかたまつた手をつなぎ、絡み合った輪をほどいて大きな円になるゲームです。知らない人同士のチームではじめは緊張していた参加者でしたが、声を掛け合いながら輪をほどいていくうちに、どんどん仲良くなり、とてもよいアイスブレイクになりました。続いては「Pictionary」。カードの英単語を見て、絵を描き、どんな単語かをあてるゲームです。この頃には国籍や言葉の違いを超え、チームとして1つにまとまったようでした。

AET企画ゲームの次は、カナダ組（過去に青少年カナダ交流訪問団として参加した学生会員）の企画「通貨ゲーム」です。各テーブルの代表者がひいた各国の通貨カードの合計金額を競うものでしたが、続いて行われた「時差ボーナスゲーム」によって、大逆転が続きました！

コーヒーブレイクで参加者がそれぞれの交流をした後は、拓殖大学北海道短期大学留学生が中心となった企画「World Word!」。留学生やAETの出身国での、それぞれの動物の鳴き声などを聞き、早当てをしました。カナダ・韓国・中国・ネパール・日本の代表者が、動物の鳴き声をする度、驚きや正解した喜びの声があちこちで上がりました。なぜか、日本語の出題が一番ウケていたような…。思いもよらない鳴き声の表し方に、文化の違いや面白さを感じることができました。

最後の「ダンスタイム」では、オクラホマミキサーを全員で踊り、楽しい雰囲気の中でお開きとなりました。

さまざまな国・地域の人たちと交流することができた、今年度のインターナショナルデー。次年度以降もたくさんの人に参加していただけるように、働きかけたいと思っています。



## 大盛況親睦の集い

深川国際交流協会 会員交流部会長 北本 清貴

毎年、恒例となった深川国際交流協会主催の「親睦の集い」が8月25日（火）にプラザホテル板倉で行われた。

本年は3名の拓大留学生を招待し、総勢で約130名の参加者が集いました。小滝会長から現在の国際交流の現状に触れた挨拶があり、山下深川市長の乾杯でこの会が始まった。会場には深川国際交流協会の歩んできた12年の足跡がパネルとして展示してあり、参加者の話題の種となっていました。パーティーの中盤には、会場のみんなが待ち望んでいた抽選会があり、会員交流部会副部会長の岡さんの進行で始まった。景品はカナダの特産物の他に深川の農産物などがあり、抽選会の発表に一喜一憂しながら大きな盛り上がりを見せた。抽選会の後、谷口理事長から締め挨拶をもらい、本年の「親睦の集い」は閉会となった。



## 青年の家でホームステイ!!～英語で遊みましょう～

深川国際交流協会 海外派遣交流部会長 上垣 由紀子

### ★プログラム★

#### ◀10月3日▶

- 13:00 開始  
【オリエンテーション】
- 13:30 研修：調理（ハンバーガー）
- 15:30 研修：創作（モリのフォトフレーム）
- 18:00 夕食・休憩
- 19:00 研修：英語版DVDの鑑賞（Pixar・Shorts）
- 21:00 自由時間
- 22:00 就寝準備
- 22:30 消灯

#### ◀10月4日▶

- 6:30 起床
- 7:30 朝食・宿泊室の清掃・整頓
- 8:30 部屋の点検及び点検終了後集合
- 8:45 ラジオ体操（英語版）
- 9:00 研修：AETのゲーム
- 10:00 研修：英語の歌を覚えよう（カントリーロード）
- 11:30 感想レポート提出
- 11:45 別れのつどい
- 12:00 終了・解散  
(時間はおおむねです)

新型インフルエンザの世界的な流行で、今年度の青少年カナダ交流訪問団の派遣は、残念ながら中止となりました。その代わりに、何か子供達に楽しんでもらえる事業をしようと、青年の家でAETの先生達と過ごす1泊2日の宿泊研修を企画しました。アポツフォードでの16日間のホームステイ（青少年カナダ交流訪問団）の代替事業であり、又、生徒達の挑戦への夢を来年度以降へつなげて欲しいという思いから、「青年の家でホームステイ」と名づけ、実施しました。部会で英語を使った楽しいプログラムのアイデアを出し合い、準備を進めました。

10月3日（土）当日、今度は深川での新型インフルエンザの流行で欠席者も出ましたが、10名の中高生が集まってくれました。深川のAETのキャロルさん、雨竜のアリアンさんを中心に、自己紹介からスタートしました。

初めのプログラムは、カナダ出身のキャロルさん、アメリカ合衆国出身のアリアンさんがおなじみの料理「ハンバーガー」作りです。生徒達は皆、エプロンに三角巾をして緊張と期待の入り混じった顔で、2人の英語での



指示に耳を傾けました。ひき肉をこね、まあるく形を作ってフライパンで焼き、あちこちでいいにおいや煙がたつ頃、皆打ち解けてきて笑い声があふれました。レタス、トマトにピクルスをはさんで食べた味は格別でした。

次は、「森のフォトフレーム」の創作活動、小枝や松ぼっくりを使って写真を飾るフォトフレーム作りです。英語での説明の後、各々好きなものを組み合わせ、真剣に、そして夢中になって作りました。「ハンバーガー作り」の時に事務局が撮った写真を入れると、個性あふれる思い出のフォトフレームとなりました。

夕食後は「ピクサーショート」というディズニー社の英語の短編アニメを觀賞し、夜はトランプやドッチボールなど思い思いに過ごしました。

10時30分には消灯でしたが、中には修学旅行気分で夜中まで話し声の絶えない部屋もありました。

2日目は、体育館で「キャプチャ フラッグ」というカナダ、アメリカでは定番の子供達のゲームを教えてもらいました。日本の「氷鬼」に似たゲームで2チームがお互いのチームの旗を取り合うゲームです。生徒達はみんな体を動かすことが大好きで、ゲームに熱中し、体力の続く限り駆け回り、120%のエネルギーを発散させました。

いよいよ最後のプログラム、ジョンデンバーの「カントリーロード」を練習しました。メロディは馴染みのあるものなので、思ったより早く上手に歌えるようになり、最後は輪になって、全員で心を合わせて歌いました。

生徒達に書いてもらった感想文には、2日間楽しかったこと、AETとの交流を通して英語への興味が増したことが書かれていて安心しました。

この新たな事業がAETとの交流のみならず、学校間を超えた交流体験となり、さらに一歩踏み出して来年度以降の青少年カナダ交流訪問団応募への意欲、挑戦につながってくればと思います。

今回新たな事業を通して嬉しかった事は、若い部員の協力です。中学、高校時代にカナダ交流訪問団としてアボツフォードへ派遣された岡隆史さん、横田育子さん、蓑口佑妃さんが成長し、協会の会員として一緒に泊まり込み、そしてギター伴奏をしてくれるなど、サポートをしてくれました。若い部員のこれからの活躍を期待すると同時に、今後も共に協力し、充実した活動へつなげていきたいと思っています。



## 高校生の交換留学生制度について

平成10年9月14日に姉妹都市提携した、カナダ・アボツフォード市と深川市では、平成14年度から高校生の交換留学を実施しています。6回目の実施となる今回は、平成21年10月28日～12月18日までの52日間、深川市から留学生（岡下亜古さん）をアボツフォード市へ派遣いたしました。

岡下さんに留学の体験を書いていただきましたので、ご覧ください。



●留学先 Robert Bateman secondary  
HP: <http://www.robertbatemansecondary.com/>

●ホームステイ先 Tucker / Winfield family.

●スケジュール

	月日	行程
出発	10月28日(水) 日本出発	深川市発 9:30 新千歳～成田 13:50～15:25 ANA * 出国手続 成田～バツカバ 19:00～11:50 AC * 入国手続 ホームステイ先へ
		12月17日(木) カナダ出発
帰国	12月18日(金) 日本帰国	成田着 17:30 成田～新千歳 19:00～20:40 ANA 深川市着 23:30

(時間はおおむねです) ※AC⇒エア・カナダ

私は10月28日から12月18日にかけて、カナダのアボツフォート市に留学してきました。約2カ月のホームステイの生活は想像以上に大変でした。今までたった1人で飛行機なんて乗ったことがなかったので、初っ端から空港で迷子になりそうでした。不安な気持ちがいっぱいでしたが、それ以上にこれからカナダで生活していくことに期待を持ち、すごくワクワクしていました。

時差ぼけはすぐにはなくなりましたが、カナダの学校に慣れるのにはかなりの時間を使いました。学校では、当たり前ですが授業は全部英語で行なわれているので、内容を理解するにはものすごく苦労しました。先生が何言っているのか理解できなくて、友達もなかなかできなくて…周りの雰囲気にもまったくついていけなくて、こんなところで1人で生活していけるのかな？と、不安で寂しくて、最初の約1カ月はほぼ毎日泣いていました（笑）。中でも一番苦労したのは友達作りです。「たくさん友達を作ってテンション上げて、楽しもう～!!」と意気込んでいましたが…初日からあっさり終わりました。頑張っ



て話しかけても会話ができませんでした。知っている言葉は限られて、相手の言葉の意味がさっぱり分かりませんでした。だから仲良くなるどころか「楽しくお話～♪」さえできませんでした、最初は、話しかけても素気ない返事をして、すぐいなくなってしまう人もいました。カナダ人はすごくフレンドリーだというイメージがあったので、ショックが大きかったです。

私が通った学校に日本人は私しかいなかったのも、もちろん日本語は話せませんでした。全部英語。そのために留学したのですけど…いざとなるとやっぱり日本人に頼りたくなってしまいます。日本語クラスでは少し日本語を話せましたが、普段の会話は英語でないと通じませんから…がんばりました!!ちゃんと友達が作れたのはカナダに行って1カ月くらいたってからでした。それまではほんとうに孤独でした（笑）。今考えたら、もっと積極的になっていたらあんな思いはしなかったのかなあ?と思います。が…私なりに頑張ったのでよしとします。

辛い思いはたくさんしましたが、最終的にはたくさん友達ができて一緒に遊びに行くこともできました!!最終日には寄せ書きまで貰って、嬉しくて、嬉しくて大泣きしてしまいました（笑）。今でも連絡をとっています。

そして、何よりも一番だったのはホストファミリーです。一言で表すと「最高」でした!!まったく英語が分からない私に単語を一つ一つ丁寧に説明してくれたり、理解できるまで何回も、簡単な単語を選んで教えてくれたり、一緒にいて安心できる家族でした。学校の授業では、私が先生にお願いにいても、先生が何もしてくれなかった時、ホストマザーはわざわざ学校に行って説明をしてくれました。みんな優しく、おもしろくて、最高のホストファミリーでした。家族に溶け込むには、もちろん時間がかかりましたが、ホストファミリーとの別れの際には、辛くて、寂しくて、涙がずっと止まりませんでした。このホストファミリーなしでは、カナダでの孤独に勝てなかった気がします。あの家にホームステイできてほんとうに良かったと思っています。



「カナダどうだった?」って誰かに聞かれたら、まず先に「すごく辛かった。」しか出てきません…が、楽しいこともたくさんありました。一生忘れられない思い出が山ほどできました。ほんとうに、貴重な経験をたくさんしてあげることができました。海外に行くことだけでも凄い経験なのに2カ月も一人でホームステイしてきたなんて…今考えたらほんとうに凄いことしてきたのだなあって思います。自分で自分を尊敬してしまうところでした（笑）。またカナダに行きたいな～と思っています。でも、なんだかんだ言って、やっぱり日本

が一番です♪日本に帰ってきたときは、肩の荷がおりて、とても安心しました。

今回の留学で学んだこと全部をこれからの生活、進路、将来に生かしていきたいと思っています。

貴重すぎる機会を与えていただき、ありがとうございました。市役所の方々、深川市民のみなさん、この留学を通して関わっていただいたみなさんに心から感謝しています。ほんとうにありがとうございました!!!!

## やさしい中国語講座 開講

深川国際交流協会 国際理解部会長 淀野 順子

拓殖大学北海道短期大学と深川国際交流協会との共催で、9月16日～12月9日までの毎週水曜日、全12回「やさしい中国語講座」を開講しました。「やさしい中国語講座」の開講は、昨年度に引き続き2年目です。講師は拓殖大学北海道短期大学の任鳳凰先生で、受講者10名と和やかな雰囲気講座が進められました。任先生のやさしい人柄や、中国の文化などを含めた中国語の講座は、受講者さんにとって楽しい時間となったようです。昨年度から引き続いて受講された方も多くいらっしゃることに加え、今年度から受講された方の中には、講座終了後も引き続き、任先生から中国語を教えていただいている方もいるそうです。今年度は講座の最終日に、任先生や拓大留学生と一緒に本場中国の餃子を調理して食べました。この講座が、受講者さんにとって有意義な学びの場であったことを実感しています。



昨年に引き続き受講された受講者さんから、講座の感想をいただきましたので、次のとおり紹介いたします。

～ 2009年度 やさしい中国語講座に参加して 牛島 弘善 ～

2009年9月16日から12月9日まで、毎週水曜日の夜間、拓大において12回シリーズで実施された中国語講座は、耳と口と目と手、さらに舌までも楽しませてくれる有意義なものでした。

まず、美人の任鳳凰先生によるピンインを学びながらの発音練習、日常の挨拶を含む基本表現や基礎文法の学習が、難しくもあり、また楽しいものでした。時には、ジャスミンの花の美しさをたたえる中国語の歌謡にも親しむことができました。これが私の耳、口、目、手、を大いに楽しませてくれました。

そして私達の舌を楽しませてくれたのが、最終回講座の三鮮水餃子作りでした。拓大の3階にある調理実習室で、留学生の王さん、林さん、汪くんたちの手助けを受けながら、受講生全員は餃子の皮づくりに挑戦。なかなか丸くならない皮やうまく包めない具に大苦戦でしたが、本当に楽しいひと時でした。茹で上げて食べた餃子の美味しかったこと！この最終回には小滝副学長もデザート差入れを持って参加され、講座を盛り上げて下さいました。任先生から中国の携帯ストラップのプレゼントまで頂いて、心もお腹も満たされて、再見と言いつつ講座を終えました。

私は、週1回のこの講座があったおかげで、中国語の自習にも熱が入りましたし、中国語の検定試験を受けてみようかという気持ちにもなりました。今は中国語3級さらには2級を目指して勉強しています。

おわりに、教室の準備や暖房にいたるまで、細かなところに気を配ってくださった拓大の田中氏をはじめ、多くの人々にお世話になりました。お礼を申し上げます。

～ 「やさしい中国語講座を受講して」 田中 慎吾 ～

昨年に続き中国語を学習する機会が与えられた。

昨年あまりのふがい無さから、今年はリベンジを誓ったのだが、講師の任先生には基礎中の基礎から、懇切丁寧に教えていただいたおかげで、昨年よりも進歩したことを感じられた。

何よりも任先生はとても明るくて、先生が首をかしげる発音をしても、笑いながらできるようになるまで接してくれるので、プレッシャーを受けずに伸び伸びと学習できた。

最終回の授業は「餃子づくり」で、中国の食文化に肌で触れることができ、心もおなかも大満足であった

# 国際文化交流パーティー ～さよなら留学生・ありがとう深川～

深川国際交流協会 副理事長 宮田 嘉明

## ＝送る会に思うこと＝

2月28日（日）、拓殖大学北海道短期大学を今春卒業する外国人留学生を送る場として、「さよなら留学生・ありがとう深川」をサブタイトルとした国際文化交流パーティーが同短大で行なわれました。これは、深川国際交流協会と同短大の共催によるもので、中国、ネパールからの留学生が自から作ったカレーや餃子を、そして、協会で用意した巻き寿司、茶碗蒸しを食べながら、深川での2年間の学生生活をスピーチで振り返り懐かしみました。

6名の留学生は、深川での思い出と、用意した抹茶を口にふくんだり、日本の着物姿で少し照れながら写真におさまるなど、思い思いに楽しい時間を過ごしました。

4月から旭川大学に編入するネパール出身のサントス君はスピーチの中で“普段着の心で受け入れてくれた、深川の人々に心から感謝したい”と流ちょうな日本語で話していました。（※スピーチの内容は次を書いてあります）

そして、記念品として用意した日本カルタと協会のバッチに見っていました。

今回、このパーティーに参加して国と国の垣根を越えた、人と人の普段着の付き合いこそが国際交流の本来の姿だと新ためて感じました。

そして、心から頑張れとエールを送りたいと思います。





国際文化交流パーティーでのスピーチより  
～拓殖大学北海道短期大学留学生（2年生） SANTOSH KHADKA（ネパール出身）～

### 僕が感じた日本の豊かさについて

私は5年前始めて日本に留学生として来て、初めて日本で住むマンションへ入って部屋の中を見渡すと電気、ガス、水道、電話などのライフラインはもとより、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、パソコン、エアコンなど日常生活をより便利、そして快適に暮らせる設備が備わっていました。ほとんどのネパール人にとって不可能に近いこのような贅沢が、日本ではごく当たり前であることを肌で感じました。

人間は、物の無い生活に苦しんでいるとき、豊かさをひたすら求め続ける。そして、物の豊かさを手にすると心の豊かさを失いがちです。日本も結局そうではないかと一時私もそう思っていました。しかし、それは誤解でした。大半の日本人は、物の豊かさを手にしても、「持ちつ持たれつ」と、人の和の大切さを忘れていません。日本社会に溶け込みたいと願っていた私を、外国人であっても受け入れ、その立場を尊重し、思いやりを持って接してくれました。おかげで私は、日本の経営経済を勉強しながら



日本の文化を理解し、それに従いながら、日本社会の一員として生きていく自信が付きました。私を寂しさから救ってくれたのは、争いを避け、誰とでも仲良く和やかに暮らして行こうとする、日本人が古くから持っていた「和の精神」だったのです。そして、この「和の精神」こそ、日本人が持っている心の豊かさで、忘れてはならない財産であり、日本における本当の豊かさ間違いのないと思います。

一方で今はテレビや新聞を見るといじめの問題や自殺とか誰でも良かったという恐ろしい秋葉原のような殺人事件など耳を疑うニュースが多い。僕はその原因としては人と人の間の良いコミュニケーションを取れていないからだと思います。私は、最近の日本人が家族を大事にしていないように見え、寂しく感じました。ネパールでは、家族のつながりや、親兄弟を思う心をととても大切にしています。何があってもまず家族の中で解決をします。つまり、家族とコミュニケーションがとても良いです。そのお陰で自分は一人じゃない、何でも出来る自信がもてるようになります。

グローバルな21世紀では海外のことを知る必要があります。しかしそれよりもっと自分と自分の国について今の日本の若者はそれを知るべきだと思います。そうすれば外国と自国の比較が出来、その国の姿が見えて来ます。大切なのは自分と自国の文化だと思います。世界にあって自分を証明するのは自国の文化だからです。日本の素晴らしい歴史と文化を日本人特に若者は積極的に学び、誇りを持ち、それを生活の中に取り入れていけば、もっとこれからの日本は良くなるだろうと信じています。日本の若者達の目に光が甦り、自分と国を愛する気持ちが増えると思います。



◆ 深川国際交流協会「親睦の集い」



◆ 国際文化交流パーティー



◆ 国際文化交流パーティー



◆ 高校生の交換留学生制度「帰国報告」

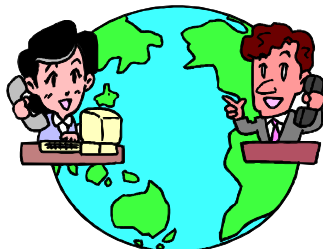
**深川国際交流協会会員募集しています！**



【問合先】深川国際交流協会事務局（深川市企画課） ☎26-2215

<http://www.fukakoku.sakura.ne.jp/>

世界に発信する深川地球市民



【広報誌発行責任者】中川 良平（広報部会部会長）

【広報誌編集担当】深川国際交流協会 広報部会

部会長：中川 良平 副部会長：岡 隆史